



たかの
高野たけし

無所属 48歳

逗子市議会議員（5期）

- ・教育民生常任委員会
- ・議会運営委員会

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

令和3年第3回定例会において、令和2年度の決算報告がありました。直近の3ヶ年を比較すると改善の兆しは見えるものの、未だ財政的余裕があるとは言い難い状況が続いています。そのため、時流と市民ニーズを捉えた事業の取捨選択を引き続き行っていく必要があります。

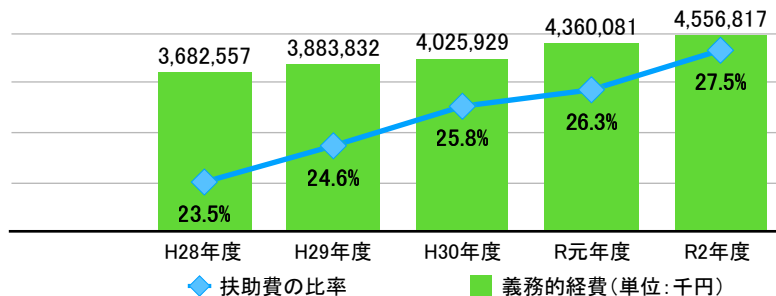
【一般会計における財務比率の推移】

	実質収支比率	経常収支比率	公債費比率	財政力指数
令和2年度	13.1%	93.2%	8.6%	0.861
令和元年度	10.5%	97.1%	8.5%	0.866
平成30年度	9.0%	92.5%	8.2%	0.871

実質収支比率：標準財政規模に対する実質収支額の割合。
経常収支比率：経常一般財源に対する経常的経費の割合。
公債費比率：経常一般財源に占める公債費の一般財源所要額の比率。
財政力指数：財政上の能力を示す指数。

また、義務的経費の拡大、特に社会保障に充てられる扶助費の増加傾向を考えると、財政運営の安定化のためにも生産年齢層の転入は不可欠です。さらに、健康寿命の延伸策を推進するなど、特別会計における医療費等の財政負担を圧縮する努力も必要になってきます。

【扶助費の推移と経常的経費に占める扶助費の割合】



政治資金の残り **75,241円**

(令和3年6月～令和3年9月の内訳)

支出…ポスター掲示用両面テープ 3,664円

■ 事業検証制度の構築で歳出規模の適正化

扶助費などを含む義務的経費が増加の一途を辿っていますが、今後さらに人口減少や高齢化が進むにつれこの割合が上昇していくことは言うまでもありません。そこで、既存事業の規模・内容を精査し歳出規模の適正化を図るべく、継続的に運用できる制度の構築を提案したところ、「これから実施する事業査定において、既存事業の見直し作業を各部局で行っていきいたい」との回答が市長よりありました。

また、新規事業に関してはスタート時に効果測定を行うタイミングを決め、行政の考えるサービスが市民にしっかりと提供されているかターゲット層の利用割合などを検証すべきとの提言に対しては、「事業開始後1年だったり3年であったり、事業ごとにその効果を図る適切なタイミングでサービスを受ける市民目線での事業検証をしていきたい」との回答が担当部長よりあったところです。

限られた財源を有効に市民サービスに還元するためにも、明確な判断基準を取り入れた事業検証制度が構築されることを期待しています。

■ 財政調整基金の積み増し計画の策定は必須

財政調整基金の積み立て額の基準を標準財政規模の10%にあたる12.5億円と考えれば、今現在もその額を超える残高は維持されています。しかしながら、新型コロナウイルス収束までの長期化や大規模災害の発生など、不測の事態に備えるためにはさらなる積み増しが必要です。さらに、公共施設の老朽化対策なども今後控えていることから、中長期的な財政調整基金の活用計画を策定するよう求めたところ、担当部長からは、「公共施設の老朽化対策をはじめとする重要課題などにも財政調整基金を活用していくことを考慮した上で、計画的に運用していく」との回答がありました。

一般質問

■ これからのゴミ処理施策

ゴミ処理の広域連携においてテーマの一つとなっていた燃やすゴミ量の削減を目的に、生ゴミの分別、資源化施設の整備が計画されています。令和6年度中の資源化施設稼働に向け、生ゴミの分別、さらに収集をどのように行なっていくのか、市民生活に直結する点については早期に示すことでスムーズな移行につながると考えます。そこで、ゴミ出し及び収集方法などについてはいつまでに決定し、どのように市民に説明していくつもりなのか質したところ、「市民との意見交換会やパブリックコメントなども参考にルールや手法等を決定し、令和5年度から各地域で実施する市民説明会で理解を求めていきたい」との回答が市長よりありました。

家庭系燃やすゴミ量の約25%にあたる1,728t/年の削減効果が見込まれる今回の取り組みについては期待しているところですが、市民に過度な負担がかかることのないよう、共同で取り組んでいる葉山町と連携し適正なルールづくりを進めて頂きたいと思っています。

■ ハラスメント撲滅に向けた取り組み

ハラスメントには、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメント、マタニティハラスメント、モラルハラスメントなど、様々なケースがありますが、共通するのは相手に対する発言や行動によって不快な気持ちにさせたり脅威に感じさせたりすることで、実際多くの職場で問題になっています。逗子市役所においても職員課に設置されている相談窓口今年度は1件、平成30年度に1件の相談があったと聞いていますし、相談窓口にはハラスメントを受けた本人が届け出るということは非常にハードルが高いことを考えれば、潜在的な被害はさらにあるものと思われます。こうした職場でのハラスメントを撲滅するためにも研修制度・内容の充実が必要である旨提案したところ、「過去には職場内ハラスメントをテーマに行政課題研修を開催したことはあるが継続していくことも重要であることから、今後は厚労省が進めるハラスメント撲滅に向けた動画などの素材も活用しながら、職員への意識啓発の機会をより多く作っていきたい」との答弁が市長よりありました。

また、若手の職員や会計年度任用職員などはなかなか言い出しにくい環境にあると思われることから、本人の身分を秘匿とした上で相談できるチャンネルを作ることにはできないのか提案したところ、「プライバシーに配慮した上で相談できる体制づくりを引き続き進めていきたい」との回答が担当部長よりありました。

気持ちよく働ける職場環境を作ることは職員が能力を発揮することにも直結するため、きめ細かい対応がなされることを望むものです。

～ Topics ～

■ 9月30日から暫定的利用が可能に

7月3日に崩落した法面の復旧工事に伴い閉鎖されていた横浜横須賀道路の逗子ICですが、9月30日から暫定的な利用ができるようになりました。

今後は本復旧に向け法面内に水が供給されないよう法面保護構造物を施すと共に、地下水位の上昇により不安定化しないよう排水措置を行っていくそうです。本復旧まではまだ時間がかかるものと思われませんが、とりあえず逗子ICが利用できない不便さと、通行止めに伴う市内の渋滞は解消されることになり一安心です。



■ 住み続けたい街ランキングで2位

首都圏(東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県)に住む20歳以上の男女を対象に不動産会社が行った調査において、逗子市が「住み続けたい街」部門で2位にランクイン。また、「街の幸福度」部門でも10位に選ばれており、本市の住みやすさを再認識する結果に触れ、大変嬉しく思っています。

【住み続けたい街(自治体)ランキングTOP10】

順位	自治体名	偏差値	評点
1位	神奈川県 三浦郡葉山町	78.0	68.7
2位	神奈川県 逗子市	75.5	67.7
3位	神奈川県 鎌倉市	74.2	67.2
4位	神奈川県 横浜市西区	73.0	66.8
5位	千葉県 印西市	69.4	65.5
6位	東京都 港区	69.2	65.4
7位	神奈川県 藤沢市	69.1	65.4
8位	神奈川県 茅ヶ崎市	69.1	65.4
9位	東京都 文京区	68.8	65.3
10位	東京都 中央区	67.8	64.9

【街の幸福度(自治体)ランキングTOP10】

順位	自治体名	偏差値	評点
1位	埼玉県 比企郡鳩山町	87.3	74.2
2位	神奈川県 横浜市都筑区	70.5	70.3
3位	東京都 中央区	69.7	70.1
4位	東京都 港区	68.0	69.7
5位	東京都 武蔵野市	67.6	69.6
6位	千葉県 印西市	66.6	69.4
7位	東京都 目黒区	66.5	69.4
8位	神奈川県 横浜市青葉区	65.7	69.2
9位	東京都 文京区	65.3	69.1
10位	神奈川県 逗子市	65.3	69.1

【出典】https://www.kentaku.co.jp/corporate/pr/info/2021/sumicoco_happiness_shutoken2021.html

あなたの声を高野たけしへ

市政に関するご意見、ご要望等がありましたらお寄せ下さい。



Tel / Fax: 046-871-7368
E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp